協力病院・協力施設の皆さん

２年次研修医　井田　千紗子

初期研修医２年次の井田です。私は将来の専攻科として眼科を考えていることもあり、今年７月に島根大学医学部附属病院の眼科で１か月間研修をさせていただきました。眼科領域は、今まで研修医として経験してきたことがほとんど通用しない特殊な分野であり、診察や検査のやり方もゼロから学ぶ必要があります。カンファレンスでは専門用語が飛び交い、カルテの記載内容の理解も難しく研修当初はやや戸惑いもありました。しかし、優しく指導熱心な先生方のご指導の下、細隙灯顕微鏡での眼科診察や手術の準備や介助など少しずつ慣れていき、日々出来るようになることが増えていく喜びを実感しておりました。毎週水曜には豚眼を用いたウェットラボで白内障手術や眼球結膜の切開･縫合などを練習できました。医局全体の雰囲気もよく、若手医師も外来や手術で困ったらすぐに上級医に相談できるので非常に恵まれた環境で研修できると実感しました。１ヶ月の研修を終えて、学ぶべき知識の多さを大いに痛感するとともに、改めて島根大学眼科の魅力を肌で感じ、もっとここで学んでみたいな、という気持ちになりました。

２年次研修医　小川　桃子

私は9月に1ヶ月間、出身である雲南市の中核病院の雲南市立病院で研修をさせていただきました。

地域医療研修ということもあり、まず、在宅診療や社会復帰支援に参加しました。患者さん自身のADLや家族がどこまでサポートできるかなど患者さんを取り巻く環境も含めて考え、多職種が関わりながら医療的介入をしていく過程を学ぶことができました。多職種が情報を共有することで患者さんを多角的に診ることができより良い方向に患者さんを導けると改めて感じました。

また、私は小児科でも研修をさせていただきました。雲南市には小児科の開業医が少ないこともあり、雲南市立病院では幅広い重症度の患者さんを診ることができ、とても勉強になりました。

雲南市立病院での経験をこれからの医師人生に活かしていきたいと思います。

最後になりますが､指導医の先生方やスタッフの皆様の温かいご尽力のおかげもあり､有意義な研修を行うことができました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

２年次研修医　片岡　諒

地域医療研修の一環として、8月に公仁会鹿島病院にて研修をさせていただきました。

これまでの研修では急性期を中心とする総合病院での研修が中心でしたので、回復期や慢性期、在宅医療が中心の鹿島病院での研修は大変新鮮で、大変新鮮な研修になりました。

特に印象的だったのは、定期的・必要に応じて開催される他職種カンファレンスでした。入れ替わり多い病棟でこれを実現するのは大変ですが、それにより他職種間で高度に連携することで、質の高い全人的な医療へつながっていると実感しました。加えて、言語聴覚士の方との交流･実地見学では、じっくりとお話を聞くことができ、大変得るところの多い機会でした。また、訪問診療・看護の研修では、その重要性を認識するとともに、その難しさや課題など在宅医療のリアルを実感を伴って学ぶことができました。

最後になりましたが、鹿島病院で研修をさせていただきまして、ありがとうございました。伊元先生をはじめ、先生方、看護師の方々、スタッフの方々のおかげで、楽しく有意義な研修を行うことができました。この場を借りて御礼申し上げます。

２年次研修医　渡會　華帆

私は令和5年6月に町立奥出雲病院で1ヵ月間の地域医療研修をさせていただきました。奥出雲病院は急性期医療をはじめとして、療養病床、町の健康センター、訪問看護ステーションを併設しており、地域の医療、保健、福祉の拠点としての役割を担っています。総合診療科の外来研修ではよくある疾患や症状の診断と治療や、複数の健康問題を抱える患者さんに対する包括的なアプローチなど総合診療の専門的な視点からの考え方を指導していただきました。病棟研修では血液腫瘍の患者さんを担当し、化学療法の適応や副作用、合併症の治療を含めた全身管理について学んだり、治療を終えて大学病院から転院した患者さんに対して退院に向けた方針を立てて病状説明を行なったり､退院後の連携体制を確認することの重要性を実感しました。また、訪問診療や訪問栄養指導に同行し、医学的問題や社会的問題を解決するには幅広い知識と経験、そして多職種が連携してそれぞれの職種の特徴の活かすことが必要であると学びました。

今回の研修を通して病院の中で完結する診療のみならず、地域全体で健康を支えている現場を目の当たりにして目指すべき医療のあり方を再考することができました。

貴重な研修をさせていただき本当にありがとうございました。

お世話になりありがとうございました

２年次研修医　小西　智明

8月の1ヶ月間、飯南病院で研修をさせていただきました。8月という暑い季節でしたが、標高のせいか松江市に比べ涼しく、働きやすい環境で研修ができました。また、飯南町という小さな町で温かい雰囲気で迎え入れていただいたことや、その温かい雰囲気のおかげか、入院初日の患者さんが「ずっと病院にいたい」とおっしゃっていたことがとても印象に残りました。

研修では、主治医という立場で入院患者さんを担当したことがとても勉強になりました。松江市立病院であれば専門科の先生に相談、紹介するような状態でも、自分で、かつ院内で対応するしかなく、膨大な知識や、必要な知識をいかに速く入手できるかという能力が必要とされると感じました。私も自分で調べながら診療を行っていましたが、一人で判断するには心許無く、指導医の先生方のお力をお借りしながら、なんとか研修を終えることができました。また、週末は担当医制のため、カルテが丁寧かつ詳細にまとめられており、まとめ方やプロブレムリストの作り方、対応が勉強になりました。その他にも、自分でCTを撮影したり、施設入所者の診察やデイケアに連れて行っていただいたりと、松江市立病院だけではできない経験をたくさんさせていただきました。今回の研修で学んだことを今後の診療に活かして頑張りたいと思います。

２年次研修医　西井 悟

私は普段松江市立病院で初期臨床研修医として勤務しておりますが、初期臨床研修の一環として保健所での業務を経験できる機会があるとのことで、2023年12月１日から15日までの計２週間、松江保健所で研修いたしました。普段の松江市立病院での臨床研修とは違い、病院への立ち入り検査や結核の検査、乳児検診や虐待対策、動物の保護など幅広い公衆衛生についての業務に関わりました。幅広く保健所の業務を経験でき、非常に貴重な機会をいただけたと感じております。

中でも児童虐待に対しての研修が勉強になりました。現在小児科医を専攻したいと考えておりますが、その際に児童虐待が疑われる症例があることが予想されます。その際、どのように対応すればよいかを今回の研修で学ぶことができました。まずは虐待の可能性があることを周囲の医療者と共有し、各相談窓口にまず連絡することが大切であります。その後に児童相談所にて虐待の可能性に対し審議が行われ、どのような対応をするかが決定されるということも学びました。また、児童相談所だけではなく、乳児検診も虐待発見、防止の重要な機会です。虐待の多くが１歳までの乳児期に行われるため、乳児検診で子育てについて不安はないかなどの問診を行い、虐待のリスクを評価することも大切です。

このような貴重な機会を得ることができ、松江市立病院で研修してよかったと強く感じております。この松江保健所での経験を今後小児科医として働いていくうえで活かせるよう、より一層精進してまいります。

２年次研修医　大谷　雛瑚

7月に知床らうす国民保険診療所で地域医療研修をさせていただきました。羅臼町は札幌から450km、最寄りの中標津空港からも70km離れた北海道の東端にある人口5000人ほどの町です。羅臼町、斜里町にまたがる知床は世界自然遺産に認定されており鹿、キツネ、カモメと日常的に遭遇します。羅臼とウトロを結ぶ知床横断道路ではヒグマにも遭遇し自然の豊かさを体感しました。海産物も豊富で7月下旬に昆布漁が解禁されると町中が漁に合わせて動きはじめます。この時期は番屋という浜辺の小屋に泊まり込みで漁師さんが海に出て昆布を取り、早朝に陸に戻ってくると家族総出で昆布を浜に並べて乾燥させる作業を行うため、昆布漁解禁前に定期受診の患者さんが多く来院されていました。診療所の常勤医師は1名で、日中の外来診療や病棟管理、24時間体制の救急対応、訪問診療、在宅の看取りまですべて行っています。CT、MRIや透析は診療所で行うことができますが、手術などの専門的治療が必要な場合は70km離れた中標津、もしくは150km離れた釧路まで搬送しなければなりません。高齢者の介護施設も不足しており町内の空きがなければ70km離れた別海町など隣町の施設を探すことになります。アクセスの悪さ、また医療従事者の人員不足は羅臼だけでなく地域医療全体の課題であるように感じます。1か月の研修を通して、限られた医療資源の中で地域医療を支える責任感や、日々勉強することの大事さを学べて大変貴重な経験になりました。ご指導いただいた木島先生を始め、診療所の皆様に心より感謝申し上げます。